

# ハチ博士の ミツバチコラム

21



京都学園大学  
バイオ環境学部  
坂本文夫教授

## 分蜂（分封）の季節

春になると女王蜂の産卵が盛んになり、巣の中が働き蜂であふれるようになります。

蜂の数が増えると巣板の先端部分に王台（女王蜂の幼虫を育てる巣穴）が形成されま  
す。王台に産み付けられた卵からかえった幼虫にはふんだんにローヤルゼリーが与えられ、やがて女王蜂に育って行きます。二ホンミツバチの場合、女王蜂が羽化する数日前に親蜂の女王は群の約半数の働き蜂や雄蜂と一緒に巣を出ます。これを分蜂（分封）または巣別れといいます。分蜂は新女王が誕生して群が増える一大イベントなのです。

元の巣から出た旧女王の群

れは新居を探す必要があります、一時的に樹木の幹や軒下（街なかでは交差点の信号の場合もある）に蜂球という蜂の塊りを作り待機します。その時、付近にキンリョウヘンという東洋蘭の花が咲いていると、その香りに引き寄せられて蜂球を作ります。

二ホンミツバチに特有なこの現象を利用して、養蜂家は分蜂群を捕獲します。

平年並みの気候なら、キンリョウヘンの開花時期と分蜂の時期が大体一致してキンリョウヘンによる分蜂群捕獲は上手く行くのですが、3月の気温が高いと、分蜂が先行し

て、花が間に合わないこともあります。私達の研究室ではこの花の香りを研究して、分蜂群の誘引成分を合成して人工の誘引剤を開発しました。元気な二ホンミツバチの群れを増やし、自然環境の保全と都市緑化に寄与できるように、本年2月に大学発ベンチャーを設立し、分蜂群誘引剤（待ち箱ルアー）を発売しました。



イラスト おおくぼひとみさん